令和6年度 小中合同研修まとめ

吉田北中・吉田小 研修係

1 令和6年度担当校　吉田北中学校

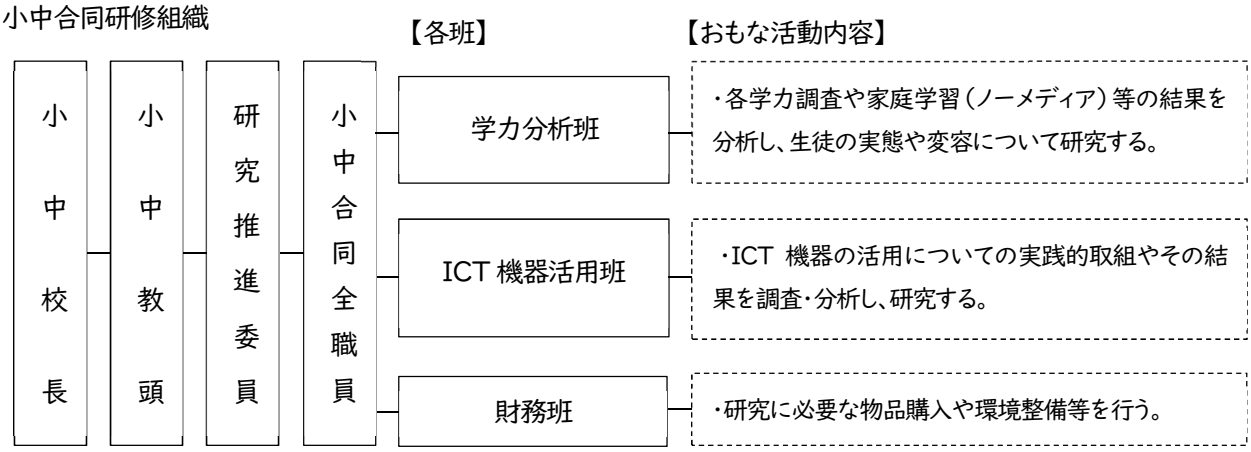
2 令和６年度の研究主題

一人一人に確かな学力をつけるための教育活動の実践
～個別最適な学びの実現に向けた小中連携～

3 令和6年度 共通実践目標

① 学力の定着についての実践研究
・学力（国語、算数・数学を中心に）
・NRT や定着度調査などの結果の分析
② ICT の活用などについての実践研究
・ICT の効果的な活用方法
・ICT とノートのバランスなど

4 小中合同研修組織



・ 各班のメンバー

○ 学力分析班【顧問：吉田北中学校校長、吉田小学校教頭】
小学校〔4名〕、中学校〔4名〕

○ ICT 機器活用班【顧問：吉田小学校校長、吉田北中学校教頭】
小学校〔4名〕、中学校〔5名〕

○ 財務関係
小学校事務担当、中学校事務担当

5 年間合同研修計画

	月日	形態	研修内容
1	4/10(金)	合同研修①	今年度の研究テーマの確認
2	5/27(月)～5/31(金)	小中連携授業参観週間	小学校が中学校を参観
3	8/1(木)	合同研修②	研究テーマの確認（中間）学力・学習状況に関する情報交換
4	11/1(金)～11/7(木)	小中連携授業参観週間	「かごしまの教育」県民週間で小中相互に実施
5	11/26（火）	合同研究授業	研究授業・授業研究（中学校）
6	1/13(月)～1/17(金)	小中連携授業参観週間	中学校が小学校を参観
7	2/10(月)	合同研修③	次年度小中合同研修について

6 今年度の成果と課題等

（1）アンケート結果から

＜成果＞

研究授業（2年社会）の様子

・9年間で子どもたちにどのような力を身に付けさせたいかということが子どもの実態の課題として見えてきた。

・子ども達の学びあう力の育成において、自由進度学習はとても効果的であると実感し、小中お互いの授業を見て、自分の中で、教育に対する視野が広がった。

・「学力の定着についての実践」では、NRT や定着調査などの結果の分析を交流することで、データをもとにした具体的な話し合いができたのでよかった。

・子ども達の中学校の様子を聞くことができ、小学校段階で身に付けておく必要があるものなどの意見交流をすることができた。

・中学校と定着度調査などの分析をすることで、中学校までの見通しを持って改めて小学校で身につけさせなければならない学力は何かという視点で学べたのがよかった。

・本校のテーマ研修でもある自由進度学習の研究授業を参観できたのがよかった。小・中学校における授業を参観するのは成果、課題を含めて学びが多いと思う

・ICT を活用しての授業展開例や、課題の出し方、スマホと連動しての活用法等も出し合い、とても参考になった。これから生かしていきたい。

・小学校の先生とお互いの課題や小学校時代の様子を聞くことができ、参考になった。

・小中両校の教師間の「関わり」が数多く見られた。連携を図るための教員間の交流はとても重要だと感じた。

・ 児童生徒の学習状況や学校生活の様子などを情報共有することができ、小中職員の交流・連携をより活発に行うことができたと感じる。

・研究授業研修を通して ICT の使用方法を学ぶことができた。

小中合同研修の様子

・生徒のロイロノートのまとめ方やグループ活動での使い方を参考にしていきたい。

・小学校の先生方と話す機会が多く、身近に感じることができた。授業の導入 5 分のスキルアップの時間を取り入れる約束もでき、学力向上について一緒に取り組めた。

・教科の検査等の分析を通して、課題解決に取り組むことができた。

・ICT の活用についての実践は難しかった。（自分自身のスキル不足のため）

・小中お互いの学力検査の実態を知ることで、学力向上の課題が見えてきた。また、授業改善につなげることができた。中学校の鹿学調、全国学調、高校入試問題で小学校の内容がどのように出題されるかも知ってほしい。

＜課題＞

・小学校の方は空き時間がなく、なかなか中学校へ授業参観に行くことができなかったので、参観できるよう来年度は改善できればよいと思う。

・班ごとの話し合いが 1 回目は 10分だったので、20～30分は設けて欲しい。

（2） 考察

今年度は「学力分析班」と「ICT 機器活用班」に分け、それぞれの共通実践目標を決め取り組んだ。長期休業中に小中合同研修の時間をじっくり取ることができ、それぞれの班で深まりのある意見交換をすることができた。また、中学校での研究授業を通して、小中で取り組む課題も明確になってきた。来年度も小学校から9年間を見通した取り組みや共通実践ができるよう、研修を深めていきたい。